

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点④〉

三郷学の視点

22. 白書と資源（「吸引資源」と「滞留資源」）

白書づくりは、まちづくりの第1歩です。三郷市は、つくばエクスプレスやJR武蔵野線などの鉄道や東京外環自動車道をはじめ広域・高速道路網が発達し、生活や産業の拠点として抜群の魅力を持っています。バスや自転車利用の環境も他市に比べて大幅に優れています。近年は、商業施設や企業の誘致も進み、雇用機会も大きく増えています。白書では、これら三郷市の状況を時系列でとらえ変化の方向性を確認したり、他市と比較することで三郷の特長となる資源を浮き彫りにすることができ




三郷ならではの商品も



市内外のみなさんが休憩する
「みさとの風ひるば」

ます。

まちづくりの資源には、市外からも広く人を引きつける「吸引資源」と、せっかく三郷に来たのだから寛いでいこう、食べていこう、買っていこうという「滞留資源」があります。これらの資源は、白書で明らかになった三郷の特長を活かしながら常日頃から市民と市が連携して磨き上げ、ときにはあらたにつくり出すことが大切です。そして、「心・技・体で多様に楽しめる」ことが魅力を引き出す鍵になります。

このような取り組み実践の中で、新しい気づき  一般
れてきます。新たな「三郷ブランド」も生まれくることで
しょう。